

国際コース・社会人コースコースの構想準備の必要性 (工学研究科の立場から)



1. 実務者が必要とする教育研究内容を目指した社会人プログラムの開設と充実
2. 技術新興国における学位未取得の学習者・研究者・教育者・実務者へ機会提供
3. 社会人との継続的な連携により、学部に至る教育内容充実・就職力強化
4. 経営上のリスクを上昇させず、しかも対象者に魅力ある環境、方法、内容提供

- 日本の特殊性を含まない講義
- 両者を対象の講義
- 英語主体、日本語で補足

特別講義時間
学費減免
特別入学試験

特別奨学制度
学費
渡航費・生活費

日本人
社会人
(目的は学習、
付随的に英語力)

外国人
留学生
(目的は学習
英語による)

- 理解には日本語が最適
- 日本人技術者が理解すべき日本特有の課題
- 平日は多忙
- 博士後期課程は英語で

- 英語による講義が必須
- 国際的内容の講義
- 一部に日本の特色から学ぶ講義
- 平日も仕事なし

各専攻にて基本構想着手を

- 国際コースを他専攻等の教員や教育研究内容を踏まえて構想
- 社会人コースを他専攻等の教員や教育研究内容を踏まえて構想
- 可能であれば、専攻間での連携を検討
- 以上の検討に着手していただきたい。
- 目標：2020年、工学研究科を母体に、6コースで、在籍数で修士120名、博士30名増加。